専修大学国際コミュニケーション学部の学生のみなさん

授業以外で、国際的に活躍する先生方や学外のプロ、大学の先輩などのトークやレクチャーに参加したり、映像を見たりする機会を、神田新校舎 15 階のグローバルフロア―から発信します。当面、オンラインで実施します。

第 3 回は、**ガルブレイス（Patrick W. Galbraith）先生**が、少し専門的なことをわかりやすく説明してくれるレクチャーです。大学らしいレクチャーで視野を広めてください。先生と学生の話し合いもあります。

テーマ：**「おたく」の研究：過去・現在・未来**
“Otaku” Research: Past, Present and Future

メッセージ：Although often historically associated with fans of science fiction and sci-fi anime such as Space Battleship Yamato and Mobile Suit Gundam, these were not the primary focus of the critique that formulated “otaku” as a label in the pages of Manga Burikko in 1983. Rather, it was men – and male fans of manga/anime-style, cute-girl characters specifically – that were associated with imagined excesses and perversions and hence labeled “otaku.” Through a close reading of the four entries in the “‘Otaku’ Research” column published between June and December 1983, the presentation highlights the subtext of “otaku” as an anxiety about failed men.

「おたく」の起源は 1970 年代に遡るといわれています。当時、多くの青年がマンガ・アニメに熱中し、特に『宇宙戦艦ヤマト』や『ゲッターロボ』『機動戦士ガンダム』といった SF 作品が消費されました。80 年代に入ると、マンガ・アニメに登場する「美少女」に惹かれる男性が「おたく」と称されましたが、いわゆる「ロリコン・ブーム」が起きるなかで、「おたく」男性は問題視されました。今回のレクチャーでは、「美少女」がうまれた 70 年代を振り返り、「おたく」がどのように語られたのか、その言説を探ります。美少女コミック誌こと『漫画ブリッコ』に掲載された連載記事、『「おたく」の研究』を取り上げ、「おたく」と「美少女」の関係には「男性失格」に対する恐れが潜在することを指摘するとともに、その恐れがいかなるものか、批判的に考察します。

日時：2020 年 12 月 18 日（金）１６：３５～１８：０５　オンライン
言語：日本語と英語

　参加希望者は、土屋昌明先生にメールを送って、オンラインのコードを受け取ってください。

Patrick W. Galbraith is a Lecturer in the School of International Communication at Senshū University in Tokyo. He holds a Ph.D. in Information Studies from the University of Tokyo and a Ph.D. in Cultural Anthropology from Duke University. His recent publications include *Otaku and the Struggle for Imagination in Japan* (Duke University Press, 2019), *AKB48* (Bloomsbury, 2019) and *Erotic Comics in Japan: An Introduction to Eromanga* (Amsterdam University Press, 2020).

■ガルブレイス・パトリック・W
専修大学国際コミュニケーション学部専任講師。東京大学大学院情報学環学際情報学府より博士号（情報学）取得後、デューク大学大学院にて博士号（文化人類学）取得。最近の著書は『AKB48』（Bloomsbury）、『Otaku and the Struggle for Imagination in Japan』（Duke University Press）など。現在、永山薫の『エロマンガ・スタディーズ』の英訳の出版（Amsterdam University Press）と、マンガ表現をめぐる規制問題、特に法律と倫理観から考える書籍（Stockholm University Press）に取組中。来年、青土社より『萌えの倫理』を出版する予定である。

＊主催：Virtual Global Floor＝国際コミュニケーション学部グローバルフロア運営委員会
2020 年 12 月 4 日